



(2) 作成のねらい、意図

学校評議員会と連動させながら、自校の特徴的な学校行事等の時期も考慮して評価の時期などを設定した。学校評議員会については、生徒の学校生活や活動の様子を理解してもらうため、第1回では給食の試食と校内球技大会の参観、第2回は福島県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会津地区大会の参観、第3回は生徒会行事の予餞会の参観をしてもらった。

(3) 自己評価年間実施状況

概ね年間計画通り実施できた。その都度課題を教職員で共有し、必要に応じて、かつ、できるところから改善しながら実施した。

## II 評価結果の概要

### 1 実施方法等

	年度末評価評価実施部署
自ら学ぶ意欲の育成	教務部、学校評価委員会
社会性の育成	生徒指導部、学校評価委員会
職業観の育成	進路指導部、学校評価委員会
地域社会との連携	保健部、学校評価委員会

○評価

学校経営・運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況および年度末評価アンケートで総合的に評価した。

○実施方法

学校経営・運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況を全教員が評価した。また、各項目共通の年度末評価アンケートを教員、保護者、生徒に実施し評価した。これらを学校評価委員会で総合的にまとめた。

○コメント

担当以外の校務分掌の努力目標についても評価するため、全教員が校務を把握することになり、このことが教員個々の意識の高さやいわゆる「風通しの良さ」につながっている。

### 2 アンケート及び回答数

(資料3:学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価・分析・反省)

(資料4:年度末評価アンケート)

(資料5:年度末評価アンケート集計)

努力目標に関する状況を、教員・保護者・生徒のそれぞれの立場・観点から4件法で質問し分析をした。特に、3者の意識のずれに注目し改善の参考にした。

4:そう思う	3:まあまあそう思う	2:あまりそう思わない	1:全くそう思わない
--------	------------	-------------	------------

学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価の回答率…全員:100%

年度末評価アンケート回答率…生徒:100(89.7)% 保護者:96.6(96.6)% 教員:100(100)%

( )は昨年度の回答率

### 3 評価基準について

評価平均を出し、下表のように設定した。

評価平均	3.8以上	3.0以上3.8未満	2.0以上3.0未満	2.0未満
評価基準	達成できた	概ね達成できた	あまり達成できなかった	達成できなかった

### 4 年度末評価のまとめ

#### (1)年度末評価実施の目的、意図

年度末評価を実施し、本校の課題、改善策を探るとともに、評価内容を参考資料のひとつとした。年度内に次年度について、校長は学校経営・運営ビジョン、各部・各学年は努力目標、および教職員は人事評価自己目標の検討に速やかに入ることを目的とした。

#### (2)年度末評価結果の分析および結果概況

##### 『自ら学ぶ意欲の育成』について

「基礎基本の定着」に関して、各教員が基礎事項の繰り返し学習を通じて丁寧な授業を心掛けている。習熟度に応じた分かりやすい授業に努め、今後も教員同士で授業の実践事例を共有しながら、その改善に努めていきたい。

「受験指導の充実」に関しては、模擬面接を主として全職員が協力して指導にあたり、進路実現に向けた支援として効果的であった。その一方で、教員が働きかけても動きの鈍い生徒もおり、そうした生徒の進路意識を高める工夫が必要である。

「充実した学校生活」に関しては、コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、生徒及び保護者の協力もあり、当初の予定通りに実施することができた。その結果、生徒の連帯感や円滑な人間関係を深める好機となった。一方で、学習上の悩みや生活上の悩みについては各担任が窓口になり、適宜面談を取り入れながら生徒のケアに努めた。また、定期的に担任以外の教員（各部署で主任を務める教員が学年毎に割り振られる）が生徒の面談を行う機会を設けている。

##### 『社会性の育成』について

「基本的生活習慣の育成」については、個別面談を通して生徒の実態を把握したうえで、登下校・給食指導において、普段から声かけすることにより、挨拶や礼儀などの基本的生活習慣の確立を促す指導ができたが、生徒によっては今後一層の継続的な指導が必要である。

「安全教育の推進」については、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたために一部実施できなかった行事があったが、今年度は各種安全教育関連行事について計画通りに実施することができた。特に、スマホ安全教室や薬物乱用教室では生徒自ら考える学習ができ、安全に対する意識を高めることができた。

「心と身体の健康」については、健康についての各種便りを配付したほか、心の健康教室などの行事を計画通り実施した。昨年度の反省を受け、今年度は歯科の再受診・治療を重点的に促す指導を行うとともに、給食後の歯のブラッシングを奨励するなど、口腔衛生に重点を置いて指導を行った。改善傾向は見られるものの、虫歯の保有率は依然高い傾向にあることから、次年度も継続して取り組んでいく予定である。

##### 『職業観の育成』について

「進路意識の向上」については、進路講話を目的別に低学年、高学年に分けて実施した。4年生対象の就職準備会は、例年どおり7月に実施することができ、今回も進路意識の高揚に大きくつながった。

「進路情報の活用」については、不定期ではあるが進路便りを計4回発行し、企業訪問の内容等を掲載して在校生の進路意識の啓発を図った。

「進路相談の充実」については、新型コロナウイルスの影響もそれほどなく、年度当初より準備をし、その生徒に合った面談を実施できたほか、進路アドバイザーやハローワークの就職支援ナビゲーターと密に連携して、的確な助言をすることができた。

#### 『地域社会との連携』について

「学校・家庭・地域との情報共有、連携の強化」については、校内の情報をホームページに掲載した。主に学校だよりを掲載する形での発信となったが、写真やコメントを適宜入れて、保護者や生徒へ分かりやすい情報発信に努めた。個人情報の取扱いに配慮しながら、今後も情報発信していくことが必要である。また、「ふくしま教育週間」に合わせて学校開放を実施しているほか、入学希望者には学校見学を随時受け付けており、学校の公開に努めている。昨年度、本校について中学校の先生方にもっと知ってもらおうと、域内中学校あてに学校案内を送付したためか、今年度は見学の問合せが例年より多かった。

「事業主との連携強化と、働く生徒の支援」については、適切な就労情報の提供や相談が実施できており、就業率は6割前後で推移している。今年度は1年生の就業率が比較的高く、未就業であった3年生が2人とも就業するなど、状況の改善が見られた。未就業の生徒への声かけを今後も継続したい。

### (3) 重点努力事項に対する達成状況

#### 『個に応じた指導を通じた生徒の自己実現を図る』

自己実現とは、自己の素質や能力などを発展させ、より完全な自己を実現してゆくことである。今年度も、その達成のために「個別相談」を充実させて、生徒の素質や能力を発展させるべく、共通理解をもって取り組んできた。そのため、各校務分掌において、面談活動を含め、なるべく多く生徒との関わりをもつことを目標としていた。結果として、4年生については就職を希望した4名全員が内定を得て卒業したことから、概ね目標は達成できたと思われる。

### (4) 分析に基づく改善の方向

本校の役割は、小中学校時代に不登校であった社会性に乏しい生徒を社会に通用する人間として送り出すことである。「個別相談」というキーワードを設定したことにより、全教職員が創意工夫しながら生徒に寄り添った面談等を行い、生徒は少しずつではあるが社会性を身につけつつあると思われる。来年度以降も「個別相談」を充実させていきたい。また、今年度のようなキーワード設定は教職員が一丸となって取り組める有効な手段であるため、来年度も学校経営・運営ビジョンの重点努力事項の中で、キーワードを設定し、教職員が組織的に活動できるようにしたい。

### Ⅲ 広報の概要

#### 1 目的や意図および実施状況

今年度の各種目標や取り組みについて周知するために、学校経営・運営ビジョンや学校便り等の学校情報を保護者に配付すると同時にホームページに掲載した。また、学校案内などで生徒数や進路状況等の基本情報についてもホームページに掲載した。

#### 2 配布対象、配布時期、配布方法等

	配布対象	配布時期	配布方法	ホームページへの掲載
学校便り	生徒・保護者	奇数月末	手渡し	○
学校案内	不特定多数 域内中学校	6月以降随時 7月	手渡し 郵送	○
学校新聞	生徒・保護者	3月	手渡し	×
PTA新聞	生徒・保護者	3月	手渡し	×
生徒指導便り	生徒・保護者	毎月	手渡し	×
進路便り	生徒・保護者	不定期	手渡し	×
図書館便り	生徒・保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
保健便り	生徒・保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
年度末アンケート結果	生徒・保護者	3月	手渡し	○
学校評価	不特定多数	3月		○

#### 3 実施してみたの反省点等

学校情報は、生徒を通じて保護者に届くようにしているが、アンケート結果からはあまり伝わっていないような状況が感じられる。生徒に保護者へ渡す意識をもたせるように、内容を伝えながら配付するなど、生徒から保護者にきちんと届ける指導が必要である。学校便りや学校案内以外のものについても、掲載にあたって不特定多数へ公開しても差し支えないかを慎重に見極めながら、ホームページに掲載し、地域住民の方々にも本校についてもっと知ってもらえるよう、情報提供に努めたい。

### Ⅳ 次年度へ向けて

#### 1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

年度末評価アンケートの結果については、昨年度と同様、概ね良好な評価が得られた。特に「学習事項定着の指導」や「行事や部活を通しての円滑な人間関係の育成」、「進路達成のための支援」など、教育上核を成す分野において生徒側の評価が上昇していることは、取り組みが一定の成果を上げている証左と考えられる。一方で、「各種安全教育の効果」や「スクールカウンセラーの活用」、「心と体の健康増進対策」のような生徒指導関連の項目や「学校の情報発信」など、いくつかの項目において保護者側の評価が下降しており、学校としては取り組んでいるが、保護者側にその熱量が伝わりきれていないというような状況があると思われる。今後、学校の取り組みが保護者にきちんと伝わるよう

改善策を講じるとともに、生徒や保護者のニーズの把握に努め、生徒、保護者、教員の評価のギャップを縮小できるよう、今まで以上に生徒に目配り・気配りをして教科・生徒指導を行い、本校の様々な目標を達成させ、魅力ある学校づくりにつなげていきたい。

## 2 自己評価全体の次年度の取り組みについて

今年度と同様に、『学校経営・運営ビジョン』→『各部・各学年努力目標』→『人事評価目標』をの順で目標を設定し一貫性をもたせる。担当校務分掌以外の校務内容についても意識をもたせるため、そしてチェック機能を兼ねるために年度末評価においては担当以外の評価も行うようにする。

## 3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望について

学校経営・運営ビジョンの目標達成のために、職員協議会や職員会議で情報交換をまめに行っていたこと、年度末評価を担当以外の校務分掌の努力目標についても評価したことで、校務に対する教員の意識を高めることができたことから、これらについては今後も継続していきたい。昨年度の反省をふまえ、今年度の学校評価の一連の作業については、管理職以外の学校評価委員が機能して進めることができた。

## 4 終わりに

会津地区唯一の夜間定時制の現在の役割を十分認識し、校長のリーダーシップのもと生徒の自己実現や社会性の習得を目指し、教員が一丸となって校務に取り組んでいけるようにしたい。そして、年度末には良い評価が得られるように、または自ら良い評価ができるように努力していきたい。

### <別紙資料>

資料1 『学校経営・運営ビジョン』

資料2 学校評価年間計画

資料3 学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価・分析・反省

資料4 年度末評価アンケート

資料5 年度末評価アンケート集計